

8月2日と3日で第二次試験の筆記試験が終わった。だが、技術士試験はこれで終わりではなく、12月下旬から始まる口頭試験によって完結する。

2008年度の技術士第二次試験の実施大綱では、「口頭試験は、技術士としての適格性を判定することを主眼に置き、筆記試験の繰り返しにならないように留意する」とあり、口頭試験では筆記試験の内容を直接は問われないことになっている。

ただし、口頭試験の「経歴および応用能力」、「体系的専門知識」、「技術に対する見識」などの試問事項は、専門、一般、経験の各論文と併せてその人の得意分野に集中した質問が想定される。そのため、筆記試験で書いた論文を復元して、対策を練っておくことは非常に重要だ。

今回は、論文の復元に重要なポイントを述べる。

ポイント①論文の復元

まずは、できるだけ記憶の鮮明なうちに、試験中にメモした内容を参考にして、論文を復元することが重要だ。試験が終了するまで試験会場に残っていた受験者は、問題用紙を持ち帰っていると思うので、それを

参考にしよう。

数日たつと思出すのが難しくなる。試験後はできるだけ早い段階で復元しておこう。

ポイント②誤りのチェック

復元した論文に対して数値や数式、内容などが間違っていないかどうかを確認して、誤った個所をチェックする。同時に誤字や脱字などの単純ミスも見ておくことだ。

法令や規格などが問われる問題の場合は、間違えを犯しやすいので、入念にチェックしよう。

ポイント③解答論文の改善

誤りのチェックの後は、誤った個所を正しい内容に修正し、論文をさらに改善する必要がある。新しい考えや動向があれば改善策を練って、口頭試験の対策として蓄積する。解答論文の改善も、復元後できるだけ早期に実施することが重要だ。

ポイント④語句や数値の根拠、出典の確認

論文で記述した具体的な数値や数式、図、表、重要語句などについて、その根拠と出典を調べておく必要がある。

例えば一般論文で、「国別にCO₂の年間排出量を見ると、日本は約12億

で、米国、中国、ロシアに次いで4番目の大きさだ」と解答したとしよう。口頭試験では、CO₂の年間排出量の部門ごとにおける内訳など、周辺知識を試験官が突っ込んで聞いてくる可能性がある。

一般論文を基に、試験官が専門知識を問う可能性もある。道路を選択した技術者が、「運輸部門のCO₂排出量は、自動車に起因するものが約9割を占める」と一般論文で解答したとすると、道路技術者としての具体的な解決方法などを口頭試験で質問されるかもしれない。十分に整理しておこう。

ポイント⑤他者によるチェック

論文の復元や改善をした後は、職場の技術士資格の保有者や同僚などの第三者にチェックしてもらう

このときのポイントは、客観的な目線による他者の批判を素直に受け止めることだ。謙虚に受け止めてグレードアップした解答を目指し、筆記試験の段階よりも高いレベルで口頭試験に臨む必要がある。

ポイント⑥スケジュール管理と確実な実行

論文復元からの一連の作業は、短期間に集中して実施したい。試験が終了してから盆前には終了しておこう。盆明けからは次の試験対策に移って、筆記試験の合格者に要求される技術的体験論文に力を注ぐことが重要だ。

今回は技術的体験論文の書き方について、技術士にふさわしい業務の切り口を紹介する。

連載の詳細な内容は、本誌購読者限定サイト(<http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/NCR/>)で



トマル経営技術コンサルタント代表
外丸 敏明

第13回◎試験直後の論文復元

口頭試験見据え論文を改善